

# 墨翔

発行 兵庫県水墨画協会  
 理事長 盛 静山  
 本 部 神戸市長田区大谷町2-13-3  
 TEL&FAX 078(612)7011

## 二〇二三年を振り返って

理事長 盛 静山

世界を二分する様な危機を孕むロシア・ウクライナ戦争は、日々の平穏を求める私たちの不安を高めるばかりです。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大からは一時的に解放され生活に笑顔も見えて一歩前進したように思えます。

ただ、今年も新型コロナウイルス感染症流行の収まらない中で出された展覧会でしたが、会員の尽力によって出品作品が一〇〇点以上になり、パネルを増やしての展示となりました。天候にも恵まれ来場者も多く、好評を博しました。授賞式も無事終了し、新しくお迎えした審査員の藤原先生のギャラリートーク時の講評もあり、今年の水墨画展覧会も盛大裡に終了させることができました。

その後、他地域水墨画向上の為

## 二〇二三年公募展

副理事長 小谷 鳴宝

に、今年は淡路文化会館において、受賞者・理事・評議員・淡路在住者に協力していただき「秀作選抜淡路展」を6月14日から26日迄開催することができました。中心になつて動いていただいたの場理事始め淡路在住の会員の皆さんに御礼申し上げます。

9月9日、原田の森ギャラリー4階にて、50名余りの参加者で開催された水墨画研修会は、李先生の席話を主とした講和に対し活発な質疑応答があり、大変充実した研修会となりました。

来年は原田の森ギャラリーでの20周年記念展になります。これまでの歩みを振り返り、会員の皆さんの気迫に満ちた記念展を催したいと念願しています。どうぞよろしくお願します。

ます。



6月、例年通り公募展を開催、その後、淡路島において「秀作選抜展」を催しました。幸いどちらも好評でした。この開催中にスタッフ業務に就いてくださった皆様に深く感謝を申し上げます。

今回の傾向は個性的な作品が増えたように思います。伝統を重んじつつ表現の幅を広げる創意工夫、構図や題材にも自分の思った要素が表現されていました。新しい風が感じられたように思います。

受賞をされた方々のギャラリートークも好評でした。審査員の藤原先生が会場にて講評をしてくださり会員の方とてもお喜びでした。会場の雰囲気もよく会員同士の交流もできたように思います。

会期中、会場で用具のことや「自分の絵を変えよう」と思い乍ら気になった作品ができない」と質問を受けました。ですが私も納得のいく作品はなかなかできません。構図を変え何枚か描いても、納得いかない時、用具(筆・墨・硯・紙)

を取り替えます。松煙墨を油煙墨

に、筆も大筆に、普通使う紙は中国の宣紙棉料綿連を使用しています

すが夾宜に変えたりと、つまり用具に委ねることにしています。試

行錯誤の中で、思いもよらぬ表現ができたり、描いた墨の線が滲み

広がり面を描いてくれたり感動です。つまり用具を詳しく知ること、

用い方を習得することで納得できる絵が描けると思います。今年度は

は会員の方々との親睦が深められました。今後とも皆様のご協力を

## 審査員の講評

女子美術大学

名誉教授 橋本 弘安



兵庫県水墨画協会大賞の「龍躍千瀨」兵庫県知事賞の「高砂」は、

皆が最初から選定した作品で受賞作となりました。

兵庫県水墨画協会大賞

### 「龍躍千瀨」

力強い波濤が墨色の濃淡を使い分け表現されている中に上部の崩れ落ちる波の中に龍が顔を出す面

白さを秘めた作品で、その自然と一体の中で大きさを感じる作品でした。

兵庫県知事賞 「高砂」

年輪を重ねたであろう松が、画面にリズムよく構図され、その動きが魅力的でした。また、本来な

ら、その大樹をささえる土波も描きそうな所であるが、それを余白

の中からはじめられた事に私は、かえって大きさとそのセンスを感じた。

兵庫県議会議長賞 「悠」

牡丹の花が墨を基調に表現され、彩色を要所に適格に置かれ、蝶の舞と共に美しく響き合っていると感じられた。

他、15点の賞が審査会において3名の審査員により選出されました。また、他の受賞作も風景・人物・動物・季節の情景、筆の勢いを生かした作品、丁寧な描写、澆

墨の良さを活かした作品など多彩な作品が選ばれた。全体にも様々な墨を活かした新しい要素を持つ

作品、伝統的な作風を感じる作品が集まっていました。是非、それぞれの方の思われる作風を追究して

いただきたいと審査の中で思いました。

ました。

ました。

ました。